

要 約

報告番号	甲 ㉔ 第	号	氏 名	池村 辰之介
主 論 文 題 名				
Changes in the tumor microenvironment during lymphatic metastasis of lung squamous cell carcinoma (肺扁平上皮癌のリンパ行性転移における腫瘍微小環境の変化)				
(内容の要旨)				
<p>悪性腫瘍の増殖、転移には、がん微小環境の多段階的な制御が必要である。肺扁平上皮癌のリンパ節転移におけるがん微小環境の変化を検討した。1994年4月から2014年4月に国立がん研究センター東病院で施行された肺扁平上皮癌切除例861例のうち、リンパ節ミクロ転移巣 (Lymph node micrometastasis : LN-mic, 2mm以下)、またはリンパ節マクロ転移巣 (Lymph node macrometastasis : LN-mac, 10mm以上) を有する102例を選択した。原発巣102病変 (Primary tumor : PT)、リンパ管内腫瘍50病変 (Intralymphatic tumor : ILT)、リンパ節ミクロ転移巣51病変 (LN-mic) およびリンパ節マクロ転移巣82病変 (LN-mac) を形態学的に検討した。その後、PT、ILT、LN-MicおよびLN-Macを全て有する23例において、9つの分子の発現を免疫組織学的に検討した。また、Smooth muscle protein (SMA) α陽性線維芽細胞、CD34陽性微小血管およびCD204陽性マクロファージも計測した。形態学的検討において、腫瘍細胞の有糸分裂指数、間質反応はILT、LN-MicではPT、LN-Macよりも有意に低かった ($p < 0.001$)。免疫組織学的検査において、Geminin陽性細胞の割合、EGFRの発現、CD34、CD204およびSMAα陽性の間質細胞の数において、ILT、LN-MicではPT、LN-Macよりも有意に低かった ($p < 0.05$)。肺扁平上皮細胞癌ではリンパ管侵襲およびリンパ節転移巣増大において、細胞増殖能および間質反応の低下が起こっていることが示唆された。</p>				